

## 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

### 1. 今後の見通し

予測期間: 2007年9月中旬から10月下旬までの旬別  
 対象海域: 道東海域、三陸海域、常磐海域  
 対象漁業: さんま棒受網漁業  
 対象魚群: 南下回遊群

#### 1) 道東海域

- (1) 来遊量: 9月中旬は中位水準、9月下旬には高位水準へと増加し、10月上旬頃ピークに達する。10月中旬から減少を始め、10月下旬には低位水準となる。
- (2) 漁場: 9月中旬は、落石沖で漁場が持続する他、厚岸～釧路沖にも漁場ができる。また9月下旬以降は、襟裳岬周辺でも散発的に漁場ができる可能性がある。落石沖の漁場は10月中旬には消滅し、10月下旬は釧路～襟裳岬沖が漁場となる。

#### 2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 9月下旬には断続的ながら漁場が形成される可能性がある。本格的な漁場形成は、10月上旬以降となる。10月中旬～10月下旬は昨年を下回り、中位水準で推移する。
- (2) 漁場: 9月下旬には八戸沖において断続的ながら漁場が形成される可能性がある。10月上旬は三陸北部が主漁場となる。10月中旬には、漁場が三陸南部まで広がる。

#### 3) 常磐海域

- (1) 来遊量: 10月上旬は来遊量が少なく、漁場ができるのは10月中旬以降となる。10月下旬には、中位水準まで増加する。
- (2) 漁場: 10月中旬は、常磐北部において断続的ながら漁場が形成される可能性がある。来遊が本格化する10月下旬は、常磐北部が主漁場となる。

### 2. 予測の概要

海 域		9月中旬	9月下旬	10月上旬	10月中旬	10月下旬
道東海域	来遊量					
	動向	中位増加	高位増加	高位水準	中位低下	低位減少
	漁 場	落石～釧路沖	落石～釧路沖・襟裳岬周辺	落石～釧路沖・襟裳岬沖	釧路～襟裳岬沖	釧路～襟裳岬沖
三陸海域	来遊量					
	動向		断続的	低位増加	中位増加	中位水準
	漁 場		八戸～宮古沖	北部	北部～南部	北部～南部
常磐海域	来遊量					
	動向			断続的	低位増加	中位増加
	漁 場				北部	北部

### 3. 漁況の経過概要

(8月下旬)

#### 1) 道東海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前年を上回り、中位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期前半には来遊量は多かったが、25日頃から減少した。

##### (2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石南南東～南の 20～50 海里付近(表面水温 11～16℃)。24 日夜までは多くの大型船と小型船が操業し、規定量を漁獲。25 日夜以降は、規定量に達しない船も多くなってきた。27 日夜以降は、水温が上昇したため、道東海域より北へ漁場が移動した。

##### (3) 魚体

30～31cm モードの大型魚が主体。中型以下の魚の混じり具合は、日によって異なり、2～5 割程度。体重 170g 台が主体で、昨年よりも太っている魚が多かった。